

## 海外安全対策情報第1四半期

### 1. 社会・治安情勢

リオデジャネイロ州全域で拳銃、機関銃、手榴弾等を使用した殺人、強盗等の凶悪事件が引き続き多発している。特に、リオデジャネイロ市及び郊外のスラム街（ファヴェーラ）では麻薬密売組織間の抗争が継続しているほか、治安当局による麻薬密売組織対策活動において度々銃撃戦が発生し、流れ弾による被害者が発生している。

### 2. 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

(1) 州政府は凶悪犯罪対策に注力しており、殺人、強盗の発生数は過去5年間ほぼ一貫して減少傾向であるが、依然として極めて高い発生率で推移している。人口当たりの発生率を日本と比較すると、殺人が約30倍、強盗は200倍以上である。また、窃盗、詐欺、傷害、強姦等の罪種は増加傾向であり、総じて治安が改善しているとは言い難い状況にある。

近年、リオを訪れる観光客の増加に伴い、観光客を標的とする強盗、窃盗の発生が大幅に増加している。

リオ州公安研究所による、本年4月の犯罪統計は以下のとおり。(括弧内は前年同月比の増減数)

	リオ州	リオ市
殺人	4 1 5 (+ 7 5)	1 2 4 (+ 1 7)
強盗	9 9 9 4 (+ 9 3 4)	4 7 9 9 (- 6)
(うち路上強盗)	4 9 2 5 (+ 6 4 7)	2 3 4 9 (+ 8 0)
窃盗	1 4 4 2 0 (+ 7 2)	7 8 7 8 (- 2 4 9)
強姦	5 2 4 (+ 8 0)	1 5 5 (+ 1 8)

#### (2) 邦人被害事案

(ア) ブラジリアとリオを結ぶ深夜長距離バスがミナス州とリオ州の境界付近の山間部を走行中、6, 7人の武装集団に襲われた。車内には4人の日本人乗客があり、金品を強奪された。身体への危害はなかった。

(イ) 在留邦人がカードスキミング被害。ガレオン国際空港のATMを使用した際にカード情報を盗まれたと見られる。

(ウ) 週末の日中に旅行者がセントロ地区を徒歩で観光していたところ、自転車乗車の男に鉄パイプで脅され、財布を強奪された。

(エ) 在留邦人がフラメンゴ地区セナドール・ヴェルゲイロ通りを徒歩移動中、前方から接近した自転車乗車の黒人の若者に、すれ違いざまにネックレスを奪われた。

(オ) 週末の午後7時頃、コパカバーナ地区のミニストロ・ヴィエイロス・デ・カストロ通りで在留邦人が若者グループに囲まれて現金と携帯電話を奪われる

被害。現場付近のプラッサ・リドには素行不良者が屯しており、事件が多い。

### (3) 邦人以外の被害事案

- (ア) 4月2日16時30分頃、アヴェニーダブラジルの上を交差する高架から路線バスが転落、死者7名の惨事となった。バス運転手と乗客の口論から、乗客の学生が運転手の顔面に跳び蹴りしたため、バスは制御を失って高架から転落したと判明。
- (イ) 4月9日夜、ラランジェイラス地区ピニエイロ・マシャド通りで自動車強盗が発生。同所からはサンタバルバラ・トンネルを経由して北部への逃走が容易なため、自動車窃盗や自動車強盗が多発。ヘボウサス・トンネルがあるコスメ・ヴェリョ地区でも同様の傾向。
- (ウ) 4月15、16日、フラメンゴ公園で外国人観光客の強盗被害が続発。マリーナ・ダ・グロリア付近は薬物密売人や薬物中毒者が多く、注意を要する。
- (エ) 5月20日午前7時頃、ボタフォゴ地区コンジ・デ・イラジャ通りにある5階建てアパートに拳銃で武装した覆面の強盗団がガレージから侵入し、門衛や使用人を制圧後、住人を次々に拘束して金品を強奪、住人の車を奪って逃走した。
- (オ) 5月23日午後、ボタフォゴ地区メーナ・バヘト通りのレストランに3人組の賊が押し入り、店内の客35人を拳銃で脅して金品を強奪した。
- (カ) 5月27日午後4時30分頃、ボタフォゴ・プライア・ショッピング内の宝石店に拳銃で武装した3人組の賊が押し入り、宝石や現金を強奪した。
- (キ) 6月中に大規模デモが繰り返された。特に6月20日は30万人がデモに参加し、暴徒化した一部参加者が激しい破壊・略奪行為を行った。

### 3. テロ・爆弾事件発生状況

事件の発生は認知していない。

### 4. 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人被害は確認されていない。

本年1月中にリオ州内で短時間誘拐2件、脅迫6761件が発生している。

### 5. スラム街対策状況

- (1) 4月29日、リオ市南部コスメ・ヴェリョ地区のセホ・コラー・スラム街において麻薬組織掃討作戦が実施され、6月3日にUPP（軍警察治安維持部隊）が設置された。
- (2) 6月24日夜、リオ市北部沿岸のマレ地区を拠点とする犯罪組織がデモ行進に便乗して集団強盗を敢行、犯行グループをノヴァ・オランダスラム街まで追跡した軍警察と犯罪組織の間で激しい銃撃戦が発生し、警察官1名が死亡した。翌朝、軍警察は400名体制で同スラム街に侵攻、激しい銃撃戦が繰り返

され、9名が死亡した。死者のうち3名は犯罪組織とは無関係であったことが判明し、軍警察に対する批判が高まっている。マレ地区にはUPP設置計画が進められているが、設立の目処は立っていない。

6. 日本企業の安全に関わる諸問題  
特になし。

以上